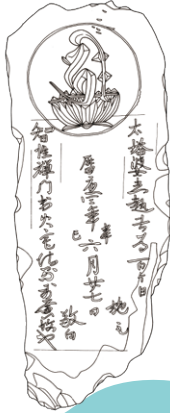


表紙のモデル



松島町雄島の暦応4年銘板碑

年代：暦応4年(1341:北朝年号)南北朝時代
 大きさ：高さ70.0×幅27.5×厚さ5.8(cm)
 石材：砂質頁岩(石巻の井内石)

板碑は、中世の石製供養塔の一種です。石材を板状に加工した形から板碑と呼ばれます。仏をあらわす梵字や図像が刻まれ、おもに亡くなった人の往生を祈るためにつくられました。鎌倉時代の前半、関東地方で始まったといわれています。この板碑は、2008年8月1日、宮城県松島町の雄島の海底から発見されました。智性禅門という人物の百か日供養のために作られ、雄島に立てられたと考えられます。阿弥陀如来をあらわすキリクという梵字が円相と蓮座によって飾られ、デザイン化されているのが特徴的です。

バックヤードのひとこま

今年度からデジタルアーカイブの取り組みを始めました！
 その様子をご紹介します！

収蔵庫のどこに
 何があるか確認！



実際にチェックした情報をもとに、
 収蔵リストを修正！



WEB公開用の写真撮影！
 きれいに撮れているかな？



東北学院大学博物館 情報誌

OTAKU みゅーじあむ

オタクな板碑、お宅でいかが？

タイトルの由来

東北学院大学博物館が開催するユニークなイベントや所蔵する“ちょっとマニアック？”な資料を紹介する雑誌であり、ご自宅で読んで楽しめる雑誌を目指し、このタイトルにしてみました。

発行日 2025年10月31日

10号担当 松浦那奈、佐澤春花、佐々木大樹、鳴海公祐、吾孫子侑希

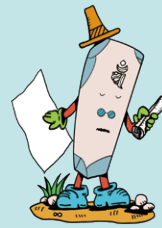
編集・発行 東北学院大学博物館

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1
 TEL:022-264-6920
<https://www.ipc.tohoku-gakuin.ac.jp/tgum>



- 東北学院大学土樋キャンパス内 中央図書館南側
- 地下鉄「五橋駅」下車、愛宕上杉通りを南方向に徒歩5分
- 来館者用駐車場あり(愛宕上杉通り側から)

東北学院大学博物館 情報誌



OTAKU みゅーじあむ

オタクな板碑、
 お宅にいかが？



10号

2025.9～開催中!!

2025年度 館園実習成果展 「勝平得之版画展～今に伝える風景～」

2025年度館園実習は、計32名の学生を受け入れ、8月11日から9月12日までの一か月間で4班に分けて実施していきました。今年度の展示テーマは、秋田と共に生きた民俗版画家「勝平得之」の彩色版画4作品と、三枚一組となる絵はがき集『勝平得之之作民俗版画集』に収録された4作品です。今回の館園実習においても、資料の選定から始まり、来館者を意識した展示構想、キャプション・解説パネルの制作など、学生たちに様々な経験を積んでもらう良い機会となりました。

今年度実習の成果展は、9月16日から鋭意公開中です。ぜひお立ち寄りください。



2025.9～開催中!!

企画展「財布の中にも歴史はあった！」 ～第一次世界大戦後ドイツのハイパーインフレの中で、人々はどう生きたか～

文学部歴史学科の杵淵文夫先生のゼミ(ヨーロッパ史総合演習Ⅰ:ヨーロッパ近現代史)が、今年度の学修テーマである第一次大戦後のドイツにおけるハイパーインフレ問題をパネルにまとめ、インフレ紙幣11点とともに展示しました。ゼミの学生は、ハイパーインフレの原因や人々の生活状況に焦点をあてて学修を進め、夏のオープンキャンパスでも発表しました。展示のインフレ紙幣は、当時の先進工業国の経済がたちまち崩壊してしまった歴史的事例を今に伝える遺物です。ぜひゼミの研修成果とともにご覧ください。



新収蔵資料 勝平得之「ほんでき棒売ノ図」ほか

2025年度の新収蔵資料として、当館でコレクションしている勝平得之の版画作品2点を新たに収集しました。

岩手県の伝統行事を描いた「チャグチャグ馬コ祭」と、秋田県のかつての風俗を描いた「ほんでき棒売ノ図」は、地域文化を鮮やかに表現した作品です。明治から昭和にかけて、秋田の風土風俗を描き続けた得之。色彩豊かに描かれた作品は、当時の暮らしや文化を生き生きと今に伝えます。

新収蔵資料2点は、今年度の館園実習展にて公開中です。



博物館 小道具事典 第3巻

害虫トラップ

博物館を守る影のヒーロー!
紙製や木製の資料は、虫たちの大好物...
入口付近や隙間に設置して、
侵入してきた虫をキャッチ!

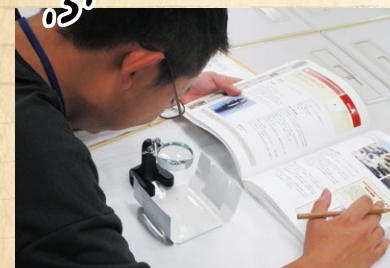
ジャー

見えないところで
大活躍!



入った虫を
逃さずキャッチ!

ふむふむ



博物館の虫対策
アイテム紹介!!

ルーペを使って
トラップの中をチェック!
事典で調べて、
どんな虫が入ってきたのか確認。
対策を考えて、
展示資料の安全を守ります!

新・学芸研究員紹介

新たに学芸研究員の仲間となった
メンバーをご紹介します!

- ①専攻分野
- ②学芸研究員として力を入れていることを聞いてみました!

ごへ しょうま
五戸 翔天

- ①考古学
- ②収蔵庫の整理作業。後世に残すべき資料の保管とその活用は、博物館として必ず行わなければならない作業です!

ならみ こうすけ
鳴海 公祐

- ①アジア史
- ②収蔵庫整理は、博物館運営における土台ともいえる「博物館資料」の保管・管理を行う重要な業務であるため、特に意識して頑張っています!

さきさき だいき
佐々木 大樹

- ①考古学
- ②わかりやすい解説でより博物館を楽しんでもらいたい!

さざわ はるか
佐澤 春花

- ①民俗学
- ②分からないことを調べる。展示解説をする時に、様々な質問に対応できるように、下調べは欠かせません!

まつら なな
松浦 那奈

- ①民俗学
- ②博物館PCのデスクトップ整理。みんなが使うので、すぐデータがいっぱいになってしまいます...

えんどう げん
遠藤 玄

- ①考古学
- ②展示の解説。未読の方に、モノが持つ魅力を感じていただく、博物館そのものを応援したい!と思って頂けるように頑張っています。

あひこ ゆき
吾孫子 侑希

- ①民俗学
- ②解説の準備。魅力を伝えるために、わかりやすい解説づくりのヒントを探しています!それでも時には、予想外の質問が...!?



宮城県松島町

お し ま

「雄島海底板碑群調査プロジェクト」を紹介します!

東北学院大学文学部歴史学科の日本中世史ゼミと松島町の瑞巖寺は、2006年から合同で松島町の板碑^{いたび}の調査を行っています。70点ほどの板碑が確認されていた雄島は、中世の霊場の風景が現在にのこる場所として知られていましたが、その周辺の海底からも大量に板碑が発見されました。大学博物館では、その調査成果を展示しています。

2025年度の雄島海底調査は、6月13日・27日、7月11日・25日、8月9日の5回実施しました。

学芸研究員(大学院生)とミュージアム・サポーター(学部生)延べ21人の参加をえて、通算4,000点目の資料を採集することができました! その活動の様子を紹介します。



大発見 中世の陶器!!

今年は、12世紀以降に作られたと考えられる渥美焼^{あつみやき}の陶器も発見しました。亡くなった人の骨を納めていたのかもしれない。

採集・測量



5月から8月初めまで、2週間に1度、昼間に大きく潮が引きます。雄島から海へ降りて、たくさん板碑を拾うことができました! 板碑を採集した地点は、測量を行い記録化します。



脱塩処理と乾燥



採集した板碑は、約1年真水に浸して塩分や付着している有機物を取り除きます。

調査成果の展示



調査の成果は、東北学院大学博物館と瑞巖寺宝物館で展示をしています。

参加してくれたみなさんからは、

- 楽しかったけれど、ずぶ濡れになりました～
- 板碑が多く沈んでいる地点と、そうではない地点の違いがありました。なぜだろう?

などなど、感想が寄せられました。



いたびくん